岐阜県スケート連盟主催競技会の実施に 向けた感染拡大予防ガイドライン

令和2年8月1日策定

令和4年10月20日更新

岐阜県スケート連盟 スピード委員会

はじめに

本ガイドラインは、令和2年7月22日付け（令和4年9月13日更新）、公益財団法人日本スケート連盟が出した「日本スケート連盟主催競技会の再開に向けた感染拡大ガイドライン」並びに令和2年5月15日付け（令和4年10月1日変更）、岐阜県新型コロナウイルス感染症対策本部が出した「岐阜県コロナ社会を生き抜く行動指針」をもとに作成したものです。

1 競技会実施にあたっての基本的な考え方について

競技会実施に関しては、基本的対処方針、専門家会議提言等に基づき、以下のとおり対応すること。

なお、岐阜県で開催される当該競技会では岐阜県知事の方針に従うことが大前提であり、開催や実施の判断に迷われた際は、開催地の恵那市スポーツ課や施設が所在する岐阜県地域スポーツ課や恵那保健所及び関係部局等への相談すること。

(1) 緊急事態宣言が発令され、特定警戒地域に岐阜県が指定

- 比較的少人数のものも含め、クラスターが発生するおそれがある競技会については引き続き岐阜県知事からの自粛要請等に基づき、適切に対応すること。
- 特に、全国的な競技会については、感染リスクへの対応が整わない場合は中止又は延期するよう、岐阜県知事からの要請等に基づき、慎重な対応をとる。

(2) 特定警戒都道府県以外の特定地域に岐阜県が指定

- 全国的競技会の開催については、感染リスクへの対応が整わない場合は中止又は延期するよう岐阜県知事からの要請等に基づき、慎重な対応をとること。
- 一方、比較的少人数が参加する競技会については、地域の感染状況等も踏まえて、岐阜県知事が競技会の開催制限の解除等の対応をとることが考えられる。
この場合は、適切な感染防止対策を講じた上で実施する。

(3) 緊急事態措置の対象とならない地域

- 基本的対処方針によれば、競技会を含む催物の開催については、岐阜県知事において、「コロナ社会を生き抜く行動指針」（令和2年5月15日付け岐阜県新型コロナウイルス感染症対策本部）（令和4年10月1日変更）が発出されており、本文において、移行期間におけるステップごとの屋内外の別での施設収容率や人数上限に係る基本的考え方等が示されている。これらに沿って、「密集対策」、「密室対策」、「密接対策」、「衛生対策」など適切な感染防止対策を講じた上で実施する。
- これらを踏まえた岐阜県における、競技会を含む催物の開催に係る方針に従い、実施の可否等について判断をおこなう。また、判断に迷う場合は、岐阜県地域スポーツ課に相談する。
- 上記の移行期間において、各段階の一定規模以上の競技会の開催についてはリスクへの対応が整わない場合は中止又は延期するなど、岐阜県知事からの要請等に基づき、慎重な対応をとること。

○ 感染拡大の兆候や競技会におけるクラスターの発生があった場合、岐阜県知事の協力の要請等に基づき、無観客化、中止、延期等の適切な対応を行うこと。

※岐阜県知事同様に、恵那市長の協力の要請等にも適切な対応を行うものとする。

2 競技会開催・実施時の感染防止策について

競技会開催・実施時の感染防止策について、基本的対処方針、専門家会議提言等に基づき、参加者が競技会に安全・安心に参加できるよう、岐阜県知事の方針に反しないことを前提として、競技会を開催・実施することとした岐阜県スケート連盟主催（主管が、その際の運営に当たり留意すべき事項を取りまとめたもの。

また、競技会の主催者（主管者）は、以下の内容を踏まえつつ、競技会の特性を勘案して感染防止のため自らが実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項を厳守整理する。

また、各事項については、別紙チェックリストを活用し、適切な場所（受付場所等）に掲示するとともに、各事項がきちんと遵守されているか定期的に巡回・確認することにより主催者だけでなく、参加者を含む関係者全員が感染防止に努めること。

なお、高齢者(マスターズ)など参加者の特性にも配慮すること。

(※) チェックリスト（主催者及び参加者向け）により、感染拡大防止のための措置・記録を行うこと（様式1. 2）

(1) 参加申込時の対応

主催者は、参加申込に際し、感染拡大の防止のために参加者が遵守すべき事項を明確にして協力を求めること。また、これを遵守できない参加者には、他の参加者の安全を確保する等の観点から、参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあり得ることを周知する。なお、主催者が参加者に求める感染拡大防止のための措置。

- ① 参加者、大会運営スタッフなどは、新型コロナワクチン接種を済ませていることが望ましい。
- ② 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（当日確認）
  - ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
  - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ウ 過去 **3日以内**に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ③ マスク（**不織布が望ましい**）を持参すること
- ④ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- ⑤ 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（2mを目安に：最低1m）を確保
- ⑥ 競技会開催中に大きな声で会話、応援等をしないこと
- ⑦ 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従う
- ⑧ 競技会終了後 **1週間以内**に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する

(2) 当日の参加受付時の留意事項

主催者は、当日の受付時に参加者が密になることへの防止や、安全に競技会を開催・実施するため、以下に配慮して受付事務を行うことが必要。

- ① 受付窓口には、非接触型体温測定器や腋下体温計を準備し、できる限り検温の実施、手指消毒剤を設置し手指消毒を行うよう指示すること
- ② 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼びかけること
- ③ 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽する
- ④ 関係者の施設へ入場の際の出入り口では、参加者が距離をおいてなるべく密を避け（できるだけ2mを目安に：最低1m）並べるように目印の設置等を行うこと
- ⑤ 受付を行う役員には、マスクを着用させる
- ⑥ インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるようにする

(3) 参加者への対応

【別添に示すように参加する選手は健康管理表を提出すること】

1) 体調の確認

主催者は、当日に、参加者から以下の情報を、主催者が保存できる形で提出を求めること。（複数のチーム等は、取り纏めて一括で提出。各自は控える。）

- ① 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取扱いに十分注意
- ② 当日の体温（シーズン中は毎日朝夕の検温実施と専用シートに記載管理を推奨。）
- ③ 競技会前 **1週間**における以下の事項の有無
  - ア 平熱を超える発熱
  - イ 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状
  - ウ だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）
  - エ 嗅覚や味覚の異常
  - オ 体が重く感じる、疲れやすい等
  - カ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
  - キ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ク 過去 **3日以内**に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2) マスク等の準備

主催者は、参加者がマスク（**不織布が望ましい**）を準備するように周知すること。
なお、参加の受付、着替え、表彰式等の運動・競技を行っていない間、特に会話する時には、マスクの着用を求めるが、運動・スポーツ中のマスクの着用は参加者等の判断によるものとする。

(※) マスク（特に外気を取り込みにくいN95などのマスク）を着用して運動やスポーツを行った場合、十分な呼吸ができず人体に影響を及ぼす可能性があることを周知する。また、息苦しさを感じた時はすぐにマスクを外すことや休憩を取る等、無理をしないことについても周知する。

3) 競技会参加前後の留意事項

競技会に参加する個人や団体は、競技会前後のミーティングや懇親会等においても三つの密を避けること、会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮する。

4) 選手に対しての留意事項

競技会に参加する選手に対し、下記のことを周知する。

- ① 健康調査票を提出すること（選手用）
- ② 検温の際に、37.5度を基準として判断するため、37.5度を超える発熱の場合は会場へ入場できない（施設管理者の指示に従う）
- ③ ことある毎に手指消毒と手洗い・うがいを励行する
- ④ ウォーミングアップは各自で行い、集団では行わない（エルゴ等は設置時に距離を確保）（レフェリー指示）
- ⑤ 招集レースキャップ・アームバンドは各自で装着し、返却する。
- ⑥ レース後は速やかにリンクから上がる（インフィールドで安全な距離を保つ事）
- ⑦ 控室・更衣室には長居しない。また、レース終了後は観客席などで距離を保ち待機するか、帰途につく
- ⑧ ゴミはもちかえること
- ⑨ 滑走時以外は極力マスクを着用（レフェリー指示）
- ⑩ スケート靴の脱着は、他の競技者と距離（スケート靴脱着用椅子）をとって脱着する（レフェリー指示）

(4) 主催者が準備等すべき事項(主管する大会は、主催者に同様の準備を確認・促す)

1) 手洗い場所

主催者は、参加者がイベント開催・実施の間に手洗いをこまめに行えるよう、以下に配慮して手洗い場所を確保すること。

- ① 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する
- ② 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする
- ③ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を可能な限り用意する（参加者に自分のタオルを持参させる。乾燥させる設備は使用しない）
- ④ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する

2) 洗面所

洗面所（トイレ）は、感染リスクが比較的高いと考えられることに留意する。

主催者は、利用する洗面所（トイレ）について、以下に配慮する。

- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する
- ② トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- ③ 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する
- ④ 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする
- ⑤ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を可能な限り用意する（参加者に自分のタオルを持参させる）

※上記事項については、施設管理者と協議し事前準備及び調整を行うこと。

3) 更衣室、休憩・待機スペース

更衣室、休憩・待機スペースは感染リスクが比較的高いと考えられることに留意する。主催者は、運動・スポーツを行うための服装に着替える更衣室や、一時的な休息をするための休憩スペース、参加者等が参加前の確認を受ける待機スペース（招集場所）について以下に配慮して準備する。

- ① 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける
- ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については、こまめに消毒
- ④ 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、定期的な換気に配慮する

4) 飲食物の提供時

主催者は、栄養補給等として飲食物を参加者に提供する際は、以下に配慮する。

- ① 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声をかける
- ② スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供する（ただし、ドーピング検査の対象となる競技者が参加する競技会では、未開封の飲料を提供しなければならない）
- ③ 食品等の提供については、参加者が直接取り分け具に触れるのを避け、取り扱う役員が一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供する
- ④ 飲食物を取り扱う役員にはマスク及びビニール手袋を着用させること

5) 観客の管理

観客を参加させる場合には、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなど「岐阜県コロナ社会を生き抜く行動指針」の規模要件（人数・収容率等）に準じた対応をとる。また、大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知する。（掲示板などで周知、放送等で促す）

- ① 氏名記帳簿（観客用）及び検温測定器を準備すること
- ② 検温の際に、37.5度を基準として判断するため、37.5度を超える発熱の場合は会場へ入場できない

6) 会場

会場内には感染症防止対策の放送を行い、注意喚起を行う。

7) ゴミの取り扱い

基本的にはゴミは各個人で持ち帰るよう周知するが、ゴミが発生した場合にはゴミの廃棄鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。また、マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

(5) 競技者が運動・スポーツを行う際の留意点

主催者は、競技会の参加者に対し、留意点や利用者が遵守すべき内容を周知・徹底する。

- ① 十分な距離の確保

運動・スポーツの種類に関わらず、運動・スポーツをしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離（※）を空けること
強度が高い運動・スポーツの場合は、呼気が激しくなるため、より一層距離を空ける。

（※）感染予防の観点からは、少なくとも2mの距離を空けることが適当

② その他

ア 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと

イ タオルの共用はしないこと

ウ 飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること

また、同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みはしない

エ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外に捨てない

※ 密にならないようにそれぞれの担当者が選手に呼びかける。

(6) 競技関係者への対応

1) チームリーダーズミーティング（監督者会議）

受付で健康調査票を受け取る業務担当者はフェイスシールド、マスクビニールカーテン等を使用する。健康調査票の提出はオンラインでの受付も考慮する

2) 競技役員（レフェリー指示）

① 当日朝、検温すること

② 当日、37.5度を超える発熱の場合、役員業務はできない

③ 競技役員本部に非接触型体温計及び腋下体温計を用意する

④ 会場ではマスク着用、手洗い・うがいを励行する

⑤ 会場では大声による指示は避け、必要があればハンドマイクを使用。

⑥ 役員打ち合わせは座席距離を確保する

⑦ アシスタントスターターコールは名前を確認し、アームバンドは選手が各自持って行き、各自が戻す。装着依頼があった場合はビニール手袋を着用する

⑧ マニュアルタイムキーパーは距離を確保する工夫を行う

⑨ バッジテスト員はフェイスシールド、マスク、ビニール手袋等を使用する

⑩ 競技用具は適宜消毒する

※密にならないようそれぞれの担当者が選手に呼びかける

3) コーチング関係（レフェリー指示）

① ラップボードのみの掲示で、声を出してのコーチングは行わない（レフェリー指示）

② コーチの待機場所も座席間隔を保持する

4) 公式練習（レフェリー指示）

① 公式練習のタイムスケジュールや実施方法を岐阜県スケート連盟で検討する

② 人数・時間制限の設定

5) 開始式・閉会式・表彰式（レフェリー指示）

① 簡素化できるものは簡素化する

- ② 表彰式のメダル授与もプレゼンターはビニール手袋等感染防止対策を行ない、賞状・メダルを手渡しする。(状況で、授与物品は代表者へ渡し式の割愛。)

6) 報道 (スケート連盟 (実行委員会) 指示)

- ① 囲み取材は競技者と記者の間にビニールカーテンなどを設置するか、2 m以上の距離を保つ

- ②報道用写真撮影は 1.5mの距離を保つ(撮影者のマスク着用が必須)

(7) その他の留意事項

主催者は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、当日に参加者より提出を求めた情報 (上記 (3) 1)) について、保存期間を2か月以上とし保存しておくこと。

また、終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、恵那保健所とあらかじめ検討しておく。

(以上)

<参考ホームページ>

・日本スケート連盟主催競技会の再開にむけた感染防止拡大予防ガイドライン
[guidelines20220913.pdf \(skatingjapan.or.jp\)](https://www.skatingjapan.or.jp/guidelines20220913.pdf)

・「岐阜県コロナ社会を生き抜く行動指針」について
(令和2年5月15日策定 (令和4年10月1日変更))
[321087.pdf \(gifu.lg.jp\)](https://www.gifu.lg.jp/321087.pdf)

・新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針
(令和3年11月19日 (令和4年9月8日変更) ・新型コロナウイルス感染症対策本部決定)
[kihon_r_20220908.pdf \(corona.go.jp\)](https://www.corona.go.jp/kihon_r_20220908.pdf)

・新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を公表しました
(厚生労働省ホームページ)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

・スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について (公益財団法人日本スポーツ協会)
<https://media.japan-sports.or.jp/column/10>

・社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
(令和2年5月14日スポーツ庁作成・令和3年11月16日改訂)
https://www.mext.go.jp/sports/content/20200514-spt_sseisaku01-000007106_1.pdf